

事業報告

自 2015年7月 1日

至 2016年6月30日

1. 事業の概況

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構(以下「Vリーグ機構」という)は、昨シーズンからスタートした「新開催方式」や「新ポストシーズン制導入」に加え、今シーズンからV・チャレンジリーグを「V・チャレンジリーグⅠ」、「VチャレンジリーグⅡ」の2つに分けました。バレーボール界全体の競技力向上と裾野拡大を主題に、Vリーグを目指すチームが全国に拡充することを期待して、まずは、その入り口であるV・チャレンジリーグの改革を実行致しました。

以下、第11期事業年度の概況を取り纏め報告します。

2015年6月末に木村憲治Vリーグ機構会長のJVA会長就任を受け、2015年7月6日に開催した第10期緊急理事会において嶋岡健治会長、佐藤直司副会長が就任しました。さらに、Vリーグ機構事務局長であった林孝彦氏のJVA理事・事務局長就任に伴い、後任に9月1日付で沖隆夫氏がVリーグ機構事務局長に就任しました。また、9月28日に開催された定時社員総会終了の時をもって、監事全員が任期満了により退任し、新たに11期～13期の監事2名を選任しました。

V・プレミアリーグ女子は8チームの参加により、2015年10月17日に東京体育館(東京都渋谷区)にて、男子は8チームの参加により、10月31日に福岡市民体育館(福岡県福岡市)において開幕しました。3回戦総当りによるV・レギュラーラウンドでは、白熱した戦いが続き、上位6チームによるファイナルへの切符は男女とも最終日までつれ込む混戦となりました。その後ファイナルステージ(ファイナル6、ファイナル3、ファイナル)を開催し、女子は2016年3月12日、男子は3月13日にそれぞれ決勝戦を戦いました。女子は久光製薬スプリングスが2シーズンぶり5回目の優勝、男子は豊田合成トREFELSAが創部56年目にして初優勝を飾り閉幕しました。

V・チャレンジリーグは、V・チャレンジリーグⅠとV・チャレンジリーグⅡの2リーグ制を導入しました。そのために「準加盟制度」を整備し、新たに男女6チームが準加盟として参入しました。女子はV・チャレンジリーグⅠが8チームで3回戦総当り、V・チャレンジリーグⅡが5チームで4回戦総当り、男子はV・チャレンジリーグⅠが8チームで3回戦総当り、V・チャレンジリーグⅡが7チームで3回戦総当りのリーグ戦となりました。その結果、女子のV・チャレンジリーグⅠではJTマーヴェラスが、V・チャレンジリーグⅡではトヨタ自動車ヴァルキューレが優勝。男子のV・チャレンジリーグⅠでは富士通カワサキレッドスピリッツが、V・チャレンジリーグⅡでは準加盟のVC長野トライデンツが優勝しました。

V・チャレンジマッチ(入れ替え戦)は、2016年3月5日、6日に、ひたちなか市運動公園総合体育館(茨城県)、船橋アリーナ(千葉県)にて行いました。V・プレミアリーグの7位・8位とV・チャレンジリーグⅠの1位・2位の入替え戦において、男子は2チーム共V・プレミアリーグが残留を決めましたが、女子は2チーム共V・チャレンジリーグⅠが勝利し、V・プレミアリーグ昇格を決めました。V・チャレンジリーグⅠ(8位)とV・チャレンジリーグⅡ(1位)の入替え戦は、男子は準加盟で初参戦のVC長野トライデンツが勝利し、V・チャレンジリーグⅠへの昇格を決め(入社内定)、女子はV・チャレンジリーグⅠの柏エンゼルクロスが残留を決めました。

改革元年のV・チャレンジリーグは、準加盟を加えた男女計28チームという大所帯で迎えましたが、2リーグに分けたことでその力関係が均衡し、僅差で勝敗を決する試合が続き、また準加盟の上位進出、健闘

もあり「競技力向上」「裾野拡大」につながりました。一方ではホームタウンゲームやファンサービスなど、チームによってその内容の格差が大きく、その結果がそのまま集客にも直結してしまうことにもなり、「地域密着型チーム確立」という部分では課題を残す結果となりました。

Vリーグ機構の活動成果を経営数値で見ますと、プレミアリーグの直轄大会開催やチャレンジリーグの規模拡大により、収入総額は 536,595 千円(対前期 17,819 千円増…103.4%)となりました。また費用面では、費用の見直しと経費の節減を図りましたが、来シーズンの国内リーグ発足 50 周年準備などに費用を投入したこともあり、費用総額は 510,554 千円(対前期 14,805 千円増…103.0%)となりました。経常利益は 25,624 千円(対前期 2,551 千円増)、当期純利益は 18,315 千円(対前期 3,454 千円増)の増収増益となりました。

以下、事業内容を、詳述致します。

2. 事業内容

(1)V・プレミアリーグ

2015/16 シーズンは、昨シーズン同様、女子大会・男子大会ともに参加 8 チームによる 3 回戦総当たりリーグ戦のレギュラーラウンドとレギュラーラウンド上位 6 チームによるファイナルステージ(ファイナル 6、ファイナル 3、ファイナル)の競技形式で、レギュラーラウンド 84 試合、ファイナルステージ 17 試合の計 101 試合、男女合計で 202 試合を延べ 62 会場(女子 30 会場、男子 32 会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、女子大会・男子大会合計で 337,435 人(対前年 45,948 人増)、女子大会は 170,002 人(対前年 6,759 人増)、男子大会は 167,433 人(対前年 39,189 人増)、となりました。1 開催日平均では、女子がVリーグ歴代 2 位の 3,333 人(対前年 132 人増)、男子が 2,990 人(対前年 570 人増)でした。

テレビ放送に関しては、女子大会は 40 試合(全試合に占める割合 39.6%)、男子大会は 20 試合(全試合に占める割合 19.8%)放送したのに加え、株式会社ドワンゴのニコニコ生放送(インターネット動画中継配信)にて、昨年に引き続き V・プレミアリーグ全試合の動画配信を行いました。女子大会・男子大会ともに視聴者数は順調に推移しました。

(2)V・チャレンジリーグ

2015/16 シーズンのV・チャレンジリーグは、V・チャレンジリーグ I とV・チャレンジリーグ II の 2 リーグ制を導入しました。

V・チャレンジリーグ I は女子大会・男子大会ともに参加 8 チームによる 3 回戦総当たりリーグ戦とし女子・男子各 84 試合の合計 168 試合を延べ 44 会場(女子 24 会場、男子 20 会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、男女合計で 72,380 人(対前年 2,658 人減)、女子大会は 46,042 人(対前年 2,204 人増)、男子大会は 26,338 人(対前年 4,862 人減)、となりました。1 開催日平均では、女子が 1,096 人(対前年 100 人増)、男子が 693 人(対前年 16 人減)でした。前年はV・チャレンジリーグ全体で男女合計 222 試合、延べ 49 会場(女子 24、男子 25)のデータであり、実質的には女子は大幅増員、男子はほぼ横這いという結果でした。

V・チャレンジリーグ II は、女子大会が参加 5 チーム(内準加盟 3 チーム)による 4 回戦総当たりリーグ戦、男子大会が参加 7 チーム(内準加盟 3 チーム)による 3 回戦総当たりリーグ戦として、女子 40 試合、男子 63 試合の合計 103 試合を延べ 23 会場(女子 11 会場、男子 12 会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、男女合計で 36,082 人、女子大会は 21,406 人、男子大会は 14,676 人となりました。1 開催日平均では、女子が 973 人、男子が 612 人でした。

(3)その他

①V・サマーリーグ女子大会

2015年7月3日～5日、V・プレミアリーグ(8チーム)、V・チャレンジリーグ(13チーム…含む準加盟3)の計21チームが参加して、東部(11)、西部(10)と2グループに分け、東部大会は深谷市総合体育館(埼玉県)、西部大会は岡山県総合グラウンド体育館(岡山県)で開催し、東部大会は日立リヴァーレ、西部大会は東レアローズの優勝で閉幕いたしました(ワールドカップ開催等のため決勝大会は未実施)。

若手選手の強化育成を主な目的として昭和56年から毎年開催していますが、今シーズンから3日間戦ってきた選手の中で印象に残る活躍をし、将来性の高い選手を各リーグから1名ずつ投票と選考により表彰する「フレッシュスター賞」を創設しました。

②Vリーグ・サマーフェスティバル2015

2015年7月4日～5日、Vリーグ機構では初の試みになるVリーグ男子選手によるビーチバレーボール4人制大会、『JRD presents Vリーグ・サマーフェスティバル2015 in ODAIBA BEACH～夏だ！ビーチだ！男祭りだ！！～』を公益財団法人日本バレーボール協会と協同して開催しました。インドアバレーボールのトップリーグであるVリーグの選手がビーチバレーボールで真剣勝負を繰り広げるこの大会を通じて、インドアバレーボールとビーチバレーボールが垣根を越えて、バレーボールの魅力を大きく発信しました。

③2015 アジアカラブバレーボール選手権

2015アジアカラブバレーボール選手権大会は、男子は2015年8月13日～21日に台北／台湾(参加16チーム)にて、女子は2015年9月12日～20日にハナム／ベトナム(参加10チーム)にて開催され、男子はパナソニックパンサーズ、女子は久光製薬スプリングスを日本代表として派遣しました。試合はパナソニックが10位、久光製薬はタイに決勝戦で敗れ、準優勝で大会を終了しました。

(4)社会貢献活動／アンチ・ドーピング推進活動

①日本骨髄バンク支援活動

Vリーグ機構では、社会貢献活動の一環として、2006/07シーズンより日本骨髄バンクへの支援活動を行ってきました。

2015/16シーズンも開幕から全国各地のV・プレミアリーグ男女大会、V・チャレンジリーグI、II男女大会の試合会場で、日本骨髄バンクのドナー登録を呼びかけるチラシ、各チームロゴのシールの配布やコートサイドにバナー、のぼり、横断幕などを設置し、骨髄バンクの普及啓蒙活動とドナー登録を呼びかけました。

また、2016年3月12、13日プレミアリーグファイナルの会場では、選手による募金活動を行い、集まった募金総額340,724円はすべて公益財団法人日本骨髄バンクに寄付させていただきました。

②アンチ・ドーピング推進活動の実施

昨シーズンより、Vリーグ機構と公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)は、アンチ・ドーピングの推進ならびにメッセージ発信の協同展開を決定し、今シーズンで2年目を迎えました。

来シーズン(2016/17)にバレーボール国内トップリーグ創設から50周年を迎えるVリーグは、この半世紀に亘る歴史を次世代に繋ぎ、バレーボールがより多くの皆様から愛される競技となる為に、フェアプレーの精神やスポーツの価値を護る事の重要性を再認識しています。また JADA は、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、スポーツの価値を護る事に直結するアンチ・ドーピング活動の普及・啓発を積極的に推進しております。

シーズン中には「BE THE REAL CHAMPION」と「Play True」というメッセージを表現したバナーをV・プレミアリーグの全会場にて掲出いたしました。

③東日本大震災及び熊本地震復興支援活動

Vリーグ機構では、2011年3月に発生した東日本大震災に対し、恒久的な復興支援活動を継続しておりますが、加えて2016年4月に発生した「熊本県熊本地方を震源とする地震」についても復興支援活動を実施しています。4月29日～5月5日に大阪市中央体育館(大阪府)にて開催した第65回黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会(日本バレーボール協会、大阪府バレーボール協会等)において『つなぐ力～支援の輪～』をスローガンに支援募金活動を実施しました。その後もインターネット募金サービス等を利用した支援募金活動をHP等通じて実施しています。

(5)普及活動

VリーガーOB/OGと共に、バレーボール界発展のため、全国各地でバレーボール教室や講演会を中心に普及活動を行っている「V・明日夢(みらい)プロジェクト」も今年で4年目を迎えました。

2015年度は、全国31会場でバレーボール教室を行い、またVリーグ期間中は、日清製粉グループとのタイアップ企画を全国10会場で行いました。また2016年4月以降ゼビオグループとのタイアップ企画や日野市との交流など様々な普及活動を定期的に行うこととなりました。

また、Vリーグ機構では、地域社会の活性化や未来のVリーグ選手となりうる有望選手の育成を図るべく、Vリーグチームのジュニアチームの創設ならびに育成促進に取り組み、その一環として、2015年度よりVリーグジュニア選手権大会を創設しました。本大会の創設により、ジュニアチームの選手たちに活躍の舞台を提供すると共に、この大会を段階的に発展させることで、未来のVリーグ選手を数多く育て、バレーボールの更なる普及・発展を目指します。

①「V・明日夢プロジェクト」バレーボール教室

全国31会場で行われたバレーボール教室は、ビジネスブレイン太田昭和協賛、セイカスポーツクラブ主催や各市の主催で行われ、小中高生及び家庭主婦など延べ3,390名が、講師は延べ113名が参加しました。

②日清製粉グループ presents V・明日夢プロジェクト

V・プレミアリーグ女子の協賛社である日清製粉グループのご協力の下、2015/16V・プレミアリーグの開催に合わせて開催地の子供たちを対象としたバレーボール教室を全国10会場で開催しました。小学生が延べ944名、講師が延べ20名参加しました。

③Vリーグジュニア選手権大会

2015年8月29日～30日に大阪、パナソニックアリーナにてVリーグ男子チームのジュニア11チームと枚方市の中学校男子バレーボール部の計12チームで開催しました。

(6) 研修会・委員会活動

① プレーヤーズミーティング

昨シーズンに続き、Vリーグの“主役”である選手が一同に会し、講演やディスカッションを通じてVリーグの活性化について考える「Vリーグプレーヤーズミーティング」を開催しました。今年度はVリーグチームに加え、Vリーグ準加盟チームも参加し、全36チーム計37名の選手が参加しました。

開催日 2015年8月1日(土)13:30～2日(日)16:00

会場 多摩永山情報教育センター(東京都多摩市)

出席対象者 Vリーグ各チーム代表選手

② 開催地・チーム合同会議

開催地・チーム合同会議はVリーグの大会に際して、そのシーズンの大会運営に関する最終確認を行う会議として毎年実施しています。2015/16シーズンに向けた同会議は大会関係者約150名を集め開催致しました。

開催日 2015年9月5日(土)13:30～17:00

会場 コングレスクエア日本橋(東京都中央区)

出席対象者 開催地責任者、チーム関係者、Vリーグ機構関係者 等

③ Vリーグ機構増客研修会

Vリーグ大会の観戦者について理解を深めるとともに、講演とグループワーク等を通して増客についてチームならびに各地方バレーボール協会の抱えている課題の解決を図ることを目的に開催しました。Vリーグチーム・各都道府県バレーボール協会から合計52名の方にご参加いただき、活発な議論が行われました。

開催日 2015年9月6日(日)10:00～16:30

会場 TKP神田駅前ビジネスセンター(東京都千代田区)

出席対象者 都道府県バレーボール協会関係者、チーム関係者

④ 監督研修会・JURY会議・実行支援部会議・レフェリークリニック

2011年度より開催している監督研修会を今年度も2015年9月12日(土)、13日(日)の日程で「富士通株式会社川崎工場」並びに「サントリー研修センター夢たまご」にて開催しました。多くのゲストスピーカーを招き、充実した研修会となりました。

また、同一日程同一会場の別室にて、2015/16シーズンに向けたJURY会議並びに実行支援部会議を開催したほか、13日午後の時間では、全チームの監督とJURY、Vリーグ特別審判員が一堂に会し、2015/16シーズンで適用するルールの確認等を行う、レフェリークリニックを開催しました。レフェリークリニック終了後には、2015/16シーズンから新たにVリーグ特別審判員に任命された7名に対して、Vリーグ特別審判員の証となるワッペンが嶋岡会長より贈呈されました。

開催日 2015年9月12日(土)9:00～13日(日)16:20

会場 富士通(株)川崎工場、サントリー研修センター夢たまご(神奈川県川崎市)

出席対象者 監督研修会…Vリーグ各チーム監督 9/12(土)14:00～9/13(日)12:00

JURY会議…JURY 9/12(土)9:00～9/13(日)12:00

実行支援部会議…実行支援部 9/12(土)13:30～17:00(JURY会議と合同)

レフェリークリニック…JURY、Vリーグ特別審判員、Vリーグ各チーム監督

9/13(日)9:00～16:20

⑤各種委員会活動

Vリーグ機構の委員会は、理事会・運営会議・運営幹事会等のVリーグ機構主要会議により発議発案された課題や問題など、主にVリーグ機構運営上の重要問題に関して会長が諮問するテーマについて、理事・チーム代表・事務局・外部有識者などが委員となり、研究内容・方向性・一定の結論などを運営会議ならびに運営幹事会で報告・提案や理事会・会長に答申する役割を担っています。

主要な小委員会として、「裁定委員会」、「コンプライアンス委員会」、「組合せ委員会」、「V50周年イベント委員会」、「技術情報委員会」、「規約・規定委員会」、「V・チャレンジリーグ改革委員会」などがあります。

⑥JVIMSの開発・運用

主としてVリーグ等において、JVIMSを技術統計システムとして使用してきましたが、運用・保守の観点から多くの課題が顕在化していたため、Vリーグ機構と日本バレーボール協会(JVA)が共同で新しい記録システムJVIMS(Japan Volleyball Information Management System)の開発に取り組み、2015/16シーズンからVリーグが先駆けて採用しました。開発にあたっては、Vリーグ機構技術情報委員会並びにJVA情報企画委員会で構成するJVIMS開発プロジェクトチームが主管しました。

(7)助成金

独立行政法人日本スポーツ振興センターより、我が国における国際競技力の向上を期すための国の助成金制度「競技強化支援事業助成金(国庫基金)」および「スポーツ振興くじ助成金」の交付を受けました。今年度については、両助成金で35,582千円の交付を受け、マネジメント機能強化、研修会やV・プレミアリーグ活性化、V・チャレンジリーグの強化育成・活性化に活用しました。

今後とも制度の主旨に沿った有効活用を心がけ、競技力向上とリーグ活性化に努めてまいります。

(8)協賛金

今シーズンもV・プレミアリーグに対して、従来からの協賛頂いている企業に加え、今期より新たに数社の企業より協賛を頂くことができました。

協賛いただきました各企業の皆様と、お世話になりました株式会社電通に厚く御礼申し上げます。

2016/17シーズンがスタートし、リオデジャネイロオリンピックも開催され、国内リーグ50年目を迎え、さらに2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、バレーボール界を取り巻く環境も変化するものと思われまます。

Vリーグ機構としましては、主催大会の一層の活性化に努め、魅力あるリーグ運営に努めてまいります。

法人設立時に掲げた5つのビジョンの実現に向け、より開かれた組織運営と事業活動を継続して取り組むとともに、公益財団法人日本バレーボール協会をはじめ、都道府県バレーボール協会他関係諸団体との協力関係についてもより一層の緊密化を図り、社員各位の期待に応えてまいります。

社員の皆様におかれましては、引き続き格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3. 社員の概況

*社員名、チーム名は2016年6月30日現在（順不同）

社員名	チーム名	区分	基金の口数	基金の額（円）
公益財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
株式会社ワーク	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリーホールディングス株式会社	サントリーサンバーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	1	500,000
	東レアローズ	女子	1	500,000
豊田合成株式会社	豊田合成トレフェルサ	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	JTサンダーズ	男子	1	500,000
	JTマーヴェラス	女子	1	500,000
日本電気株式会社	NECレッドロケッツ	女子	1	500,000
久光製薬株式会社	久光製薬スプリングス	女子	1	500,000
日立オートモティブシステムズ株式会社	日立リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニック株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
一般社団法人上尾中央医科グループ協議会	上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィード	男子	1	500,000
警視庁	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクトSTINGS	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッドSun GAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	柏エンゼルクロス	女子	1	500,000
東京フットボールクラブ株式会社	FC東京	男子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
	トヨタ自動車ヴァルキューレ	女子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通カワサキレッドスピリッツ	男子	1	500,000
KUROBEアクアフェアリーズ	KUROBEアクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社PFU	PFUブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO法人阪神バレーボールコミュニティ	兵庫デルフィーノ	男子	1	500,000
特定非営利活動法人仙台ベルフィーユ	仙台ベルフィーユ	女子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
東京トヨペット株式会社	東京トヨペットグリーンスパークル	男子	1	500,000
株式会社熊本サービスセンター	フォレストリーヴズ熊本	女子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	GSS東京サンビームズ	女子	1	500,000
ぎふ農業協同組合	JAぎふリオレーナ	女子	1	500,000
NPO法人アザレア・バレーボール振興会	埼玉アザレア	男子	1	500,000
合計	(36団体) (38チーム)		50	25,000,000

4. 運営体制の強化

2015年7月6日に開催した第10期緊急理事会において嶋岡健治代表理事会長、佐藤直司副会長が就任しました。また、同年9月28日に開催された定時社員総会終了のときをもって監事全員が任期満了により退任し、新たに11期～13期の監事2名を選任しました。

(1) 役員一覧

2016年6月30日現在

代表理事 (会長)	しまおか けんじ 嶋岡 健治	1949年(昭和24年)5月9日生 第10期理事(うち第10期副会長) 第11期代表理事会長 (株)オーテック 顧問 公益財団法人日本バレーボール協会 評議員
理事 (副会長)	さとう なおじ 佐藤 直司	1961年(昭和36年)11月7日生 第8～第11期理事(うち第11期副会長) 佐藤公認会計士事務所代表
理事	きむら けんじ 木村 憲治	1945年(昭和20年)7月19日生 第5期監事 第6期～第10期代表理事会長 第11期理事 公益財団法人日本バレーボール協会会長(代表理事)
理事	みよし とおる 三好 徹	1947年(昭和22年)4月15日生 第2期～第11期理事 三好総合法律事務所 所長
理事	くぼた りゅういち 窪田 隆一	1963年(昭和38年)4月29日生 第6期～第11期理事 富士通(株)グローバルサービスインテグレーション部門ビジネスマネジメント本部長 富士通カワサキレッドスピリッツ部長
理事	はやし たかひこ 林 孝彦	1959年(昭和34年)8月1日生 第6期～第11期理事 公益財団法人日本バレーボール協会 業務執行理事・事務局長
理事	かやしま あきら 萱嶋 章	1957年(昭和32年)10月4日生 第8期～第11期理事 久光製薬(株)執行役員 鳥栖工場厚生部部長 久光製薬スプリングス部長
理事	みずかわ まつね 水川 松根	1959年(昭和34年)10月10日生 第8期～第11期理事 トヨタホーム(株)法人営業部 豊田合成トレフェルサ副部長
理事	よしはら ともこ 吉原 知子	1970年(昭和45年)2月4日生 第8期～第11期理事 JTマーヴェラス監督
理事	ふじた とおる 藤田 徹	1961年(昭和36年)1月19日生 第10期～第11期理事 PFUヒューマンデザイン(株)取締役 執行役員常務 PFUブルーキャッツ部長
理事	まつおか ひろたか 松岡 宏高	1970年(昭和45年)1月22日生 第10期～第11期理事 早稲田大学教授 日本体育スポーツ経営学会理事
監事	はやの ようじ 早野 容司	1960年(昭和35年)3月3日生 第6期～第11期監事 (株)ジェイテクト営業本部 東日本支社 支社長 ジェイテクトSTINGS GM
監事	やまのかわこうじ 山ノ川 孝二	1953年(昭和28年)1月7日生 第8期～第9期理事 第11期監事 クラリオン(株)取締役 日立リヴァーレ顧問